

1 実践研究主題

「文章の内容を読み取り、
自分の考えを伝えることができる子どもの育成」

2 テーマ

読解力・表現力を高める学習指導の在り方
～「読む力」の確実な定着を目指して～

3 主題設定の理由

国語力はすべての学習活動に必要とされるものであり、学力の根幹をなす部分であると認識しており、本校が求める国語力とは、「他人の言葉が理解でき、自分の思いを自分の言葉で表現できること。」と考えている。

その力を高めるためにもっとも有効であると考えているものが、「音読」である。

音読の効力は、言うまでもないが、音読できるようになると、学習を学び進めることに自信を持ち、聞く態度の育成にもつながり、学習効果が高まると考えている。

また、音読活動や自分の気持ちを言葉で伝える活動を通して、お互いの思いを伝え合うコミュニケーション能力も高まっていくのではないかと期待している。

「読む力」に当たっては、単に読んで理解するだけでなく、自分の考えを書いたり、要約・紹介したり、再構成したり、自分の意見を論じさせたりする機会を設けることで高まる力であると考えている。

すなわち、資料等を読んで理解したことを実生活や行動と関連付けて書くことと合わせることで「読む力」は更に高まると期待している。

以上のようなことを踏まえて、本主題を設定した。

4 研究の仮説

【仮説 1】

音読を積極的に取り入れた学習を日常的に積み重ねるとともに、各教科授業において、言葉の意味や内容を理解させる指導を続ければ、心情・情景や作者の意図を考えながら読むことができたり、文章をイメージ豊かに読むことができたりするようになるであろう。

【仮説 2】

資料や教材を単に読んで理解するだけでなく、それに対する自分の考えを書いたり、要約・紹介したり、再構成したり、自分の意見を論じさせたりする機会を設けることで、「読む力」は更に高まるであろう。

5 研究の視点

視点1 音読を積極的に取り入れた授業づくり



視点2 「読む」「書く」「考える」「発表する」をバランスよく取り入れた授業づくり



6 研究の実際

(1) 音読の種類

日頃の国語科授業において、改めて取り組んでいる音読の種類について下記のように分類した。月1回実施している「国語チャレンジタイム」を中心に、国語の授業、また、他教科においても下記のような方法で、音読を積極的に取り入れた授業展開を実施した。

形態	方法		読み方		
1人	※黙読 ※音読	※微音読 ※朗読	起立読み	場所変え読み	スピード読み
2人	やまびこ読み 段落交代	一文交代 ミスなし	起立読み たけのこ読み	場所変え読み 指名なし読み	スピード読み
グループ	やまびこ読み 段落交代	一文交代 ミスなし	起立読み 交代読み	場所変え読み たけのこ読み	スピード読み 指名なし読み
一斉	やまびこ読み 段落交代	一文交代 ミスなし	起立読み 列読み 指名なし読み	場所変え読み 交代読み	スピード読み たけのこ読み

(2) 読むことの指導計画から考える評価について

国語科指導要領から、「読むこと」の指導計画及び評価について下記の通り共通理解した。

第1・2学年における「C読むこと」指導計画事項及び評価

	第1・2学年	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	Bに達していない児童への手立て
事項 音読に関する指導	ア 語のまとまりや言語の響きなどに気をつけて音読すること。	・意味内容が明瞭になるように、ひとまとまりの語や文として読んでいる。	・はっきりとした発音で文章を読んでいる。 ・言葉のくり返しやリズムなどを楽しみながら声に出して呼んでいる。	・姿勢や口形、声の大きさ、速さなどの音読の基礎練習をさせる。
効果的な読み方に 関する指導事項				
事項 説明的な文章の解釈に関する指導	イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	・読み取った内容を自分なりにまとめ直している。 ・書かれていた大体の内容について、まとまりを意識して読み取っている。	・時間的順序を表す言葉や事柄の順序に気をつけながら、大体の内容を読み取っている。	・挿絵や写真などを手がかりにしなが、読み取らせる。
事項 文学的な文章の解釈に関する指導	ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	・場面の様子について登場人物の行動を中心に想像しながら読み、読み取ったことを話し合うことができる。	・場面の様子について登場人物の行動を中心に、想像しながら読んでいる。	・挿絵や写真、会話文などを手がかりにしなが、読み取らせる。
事項 自分の考えの形成及び交流に関する指導	エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表しあうこと。	・大事な言葉や文を書き抜き、感じたことや思ったことを書くことができる。 ・自分の経験と照らし合わせながら読み、感想を持ったり、自分の考えを発表したりすることができる。	・大事な言葉や文を書き抜くことができる。 ・自分の経験と照らし合わせながら読み、感想を持つことができる。	・文例を基に「いつ」、「どこで」、「だれが」、「どうした」を読み取らせる練習をさせる。
事項 目的に応じた読書に関する指導	カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。	・読み聞かせや本の紹介、教科書教材の読みをきっかけに、自ら本を選んで読んでいる。	・読み聞かせや本の紹介、教科書教材の読みをきっかけに、おすすめの本を読んでいる	・おすすめの本を一緒に読んだり、読み聞かせをしたりする。

第3・4学年における「C読むこと」指導計画事項及び評価

	第3・4学年	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	Bに達していない児童への手立て
音読に関する指導事項	ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読することができる。	内容の中心や場面の様子が分かるように音読することができる。	あらすじや要点を押さえて、音読の技法を具体的に指導する。
効果的な読み方に関する指導事項				
説明的な文章の解釈に関する指導事項	イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むことができる。	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて文章を読むことができる。	接続語の意味を考えさせる。さらに、注目すべき言葉を抜き出し、その言葉から、段落相互の意味をとらえさせる。
文学的な文章の解釈に関する指導事項	ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。 エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすることができる。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、読むことができる。 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用することができる。	場面の移り変わりが分かる言葉を抜き出し、その言葉から分かる気持ちをとらえさせる。 注目する言葉や文節に線を引きながら繰り返し読ませ、どのような内容が中心に書かれているのか考えさせる。
自分の考えの形成及び交流に関する指導事項	オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。	文章を読んで考えたことを発表し合うことができる。	自分の意見が持てるように、発表と合わせて、意見を文章化させると同時に、友達の表現の良い点に着目させて聞く態度も育てる。
目的に応じた読書に関する指導事項	カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。	目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むことができる。	目的に応じて、いろいろな本や文章を読むことができる。	目的に合った本の選び方（目録活用）の指導。子どもたち同士の選んだ本の紹介。

第5・6学年における「C読むこと」指導計画事項及び評価

	第5・6学年	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	Bに達していない児童への手立て
音読に関する指導事項	ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。	自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすることができる。	自分の思いや考えが伝わるように音読をすることができる。	音読する文章の内容や表現をよく理解させる。
効果的な読み方に関する指導事項	イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。	目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫することができる。	目的に応じて、本や文章を比べて読むことができる。	目的を明確にし、それに見合った本や文章を紹介し、読み方の幅を広げさせる。
説明的な文章の解釈に関する指導事項	ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりすること。	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりすることができる。	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながらかんたりすることができる。	文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述に気付かせる。
文学的な文章の解釈に関する指導事項	エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえることができる。	登場人物の相互関係から人物像やその役割をとらえさせ、そのことによって、内面にある深い心情も合わせてとらえさせる。
自分の考えの形成及び交流に関する指導事項	オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。	本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	本や文章を読んで、自分の考えをまとめることができる。	話し言葉による発表交流だけでなく、書きまとめたものを読み合うことで、表現方法を学ばせる。
目的に応じた読書に関する指導事項	カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むことができる。	目的に応じて、複数の本や文章などを選ぶことができる。	どのようにすれば目的の本や文章を探せるのかといった探し方の指導を施す。

(3) 言語環境の整備

校内掲示板、学級掲示板等を利用して、言語に興味を持つことができるような環境づくりを行った。昔から伝わる季節に関する言葉や日本語の面白さを感じ取ることができるような設営を行った。

また、各学年、定期的に廊下へ児童の作品を展示し、異学年の作品を読む環境を整えた。



【校内掲示板の様子】

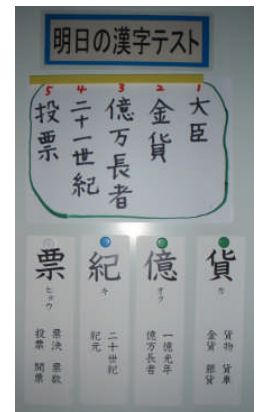
(4) 朗読タイム（国語チャレンジ）の活用

朗読タイムでは、各学年に応じた詩や物語文の一部を暗唱したり、朗読したりする活動を行い、学期に1回、発表会を開いた。暗唱や朗読はもちろんのこと、動作化や群読もあり、バラエティーに富んだ発表となった。また、発表を聞いた後には必ず、自分の感想を発表させる取組を行った。人数の多い集団の中でも発表する場を意識的に設けることで、様々な場ですらすらと自分の意見を言える子も出てきた。



(5) 漢字カード活用と漢字小テストの実施

各学年、新出漢字の学習や漢字小テストを行う際に、漢字カードを活用した。明日の漢字テストの予定を教室だけでなく、廊下等に掲示することで、小テストの誤答が少なくなっている。また、廊下等に掲示することで、他学年の漢字も、目に触れさせ、興味を持たせることを心がけた。



(6) 日記指導、読書郵便、お礼の手紙等、目的を持って書く活動

- ①日記指導→文章の書き方を例文で出して、文を書かせたり、テーマを決めて日記を書かせたりした。日記には必ず、担任からの一言コメントを書き、子どもたちの書く意欲を喚起している。
- ②読書郵便→おすすめの本の紹介を手紙形式で書き、掲示したり、手紙を送ったりする活動。紹介された本は、子どもたちの貸出が多くなり、意欲的に本を読むきっかけとなった。
- ③総合の時間→各福祉施設との交流会後、交流を深めるために手紙を書く活動や、棒踊り、稲作活動等でお世話になった方へのお礼状を書く活動を指導計画に組み、計画的に行っている。

(7) 読書活動の充実

- ・学年ごとに推薦図書20冊を教室に設置して、朝の読書の時間を中心に読破できるように取り組ませた。
- ・教科書で取り扱った教材と関連のある本については、教室に展示して、積極的に紹介する環境を整え、更に読みの幅が広がるよう手立てをとった。
- ・保護者による読み聞かせを、朝読書、昼休み、読書まつり等の機会に設け、興味を持たせた。また、家庭内での親子読書も推進した。

(1/31現在 貸出総数 10512冊 1人当たり 152冊)



【保護者による読み聞かせ】




【本の紹介コーナー】

(8) 授業実践


【 授業1 第3学年 本とお友達になろう 「三年とうげ」】

☆本授業は、読みと読み取ることとの関係を考えるために行った。

過程	主な学習活動	時間	教師の働きかけ
つかむ	1 前時までの学習をふりかえる。 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> おじいさんの気持ちが表れるように工夫して音読しよう。 </div>	4分	○ 前時で捉えたおじいさんの気持ちの移り変わりと様子を想起させる。 ○ めあては全員で声に出して確認することで、本時でやるべきことを全員が意識できるようにする。
見通す	3 本時の流れを確認する。 ① 4種類の線で表した音読の工夫したいいところを確認。 ② これまでの音読での改善点確認。 ③ グループ内での練習。 ④ 発表を聞いた後、感想や反省を発表しあう。	3分	○ 学習の手順を示すことで、全員に見通しを持たせ、時間配分をグループごとで考えながら、活動できるようにさせる。 ○ 学習の手順については、1～3場面で学習しているので、確認程度にし、練習の時間を多く確保したい。
見つける	4 4・5の場面で、線を引いたところを確認して、それに基づいておじいさんの気持ちが表れるような音読の工夫を考える。 ・ 「えいやらえいやら・・・」の歌は、おじいさんがつついいうれしくなって転びたくなるように読むといいんだ。 ・ 5 これまでの音読での改善点確認をする。 6 グループ内で練習する。	25分	○ 前時で、時間や順序は□、人物の様子はー、周りの様子＝、調子よく読む～という4種類の線引きをさせているので、もう一度確認することで、グループ活動を充実させる手立てとしたい。 ○ グループ内での練習の際に、グループ間を回り、困っていることを聞いたたり、気付いたことに助言を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 評 グループで協力し合って、音読の工夫をしているか。 </div>
深める	7 それぞれのグループの音読を聞き、感想や意見を出し合う。 	10分	○ 1つのグループが発表した後、聞いたいたグループには、直に感想を発表させることで、聞くことの目的意識を持たせたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 評 発表グループは、よりよい発表ができるように工夫しているか。また、聞くグループは、友達の発表から自分の感想を持ち、伝えることができたか。 </div>
まとめる	8 本時の学習をまとめる。 9 次時の学習について話し合う。 ・ 3年とうげの帯を作ることを理解する。	3分	○ これまで学習してきた場面のおもしろさや表現の豊かさを想起させ、物語のよさを伝えるために帯づくりをすることを知らせ、次時の意欲につなげたい。

【 授業2 第2学年 単元名「ようすを考えて読もう」(教材名 「お手紙」,「何がどうした」)】

☆ 本授業は、物語文を「読む」ための手立てを検証するために行った。

過程	主な学習活動	時間 (分)	教師の支援 〔◎評価項目, 【 】観点, ()評価方法〕
導 入	1 前時までの学習をふりかえる。 2 本時の学習場面とめあての確認をする。 がまくんの気持ちとかえるくんの気持ちを読みとろう。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・お手紙を待つ二人の気持ちの違いを想起させる。 ・2つの挿絵(P6・7とP14・15)を比べさせ、二人の表情や様子に変化していることに気づかせる。 ・「がまくんの気持ちの変化」と「かえるくんの気持ち」を読み取っていくことを確認する。 ・読む姿勢や教科書の持ち方に気をつけさせる。 ・二人の会話内容を想像できるように、しっかりと声を出して、はっきりと読ませる。
展	3 学習場面を音読する。 (追い読み → 一斉読み) 4 「がまくんの気持ちが変わったところ」を見つけて話し合う。	2 5	<ul style="list-style-type: none"> ・「がまくんの気持ちの変化」が分かる記述を見つけてサイドラインを引かせたり、がまくんの気持ちを書き込ませたりする。 * 「ああ。」には、感動や喜びの気持ちが表現されており、P.5の「ああ」とは違うことをおさえる。 ・話し合う中で、「がまくんの気持ちを変えたのは、かえるくんの手紙である」ことに気づかせる。 * 「しあわせな気持ち」という言葉の意味をおさえる。
開	⇒ 「かえるくんの手紙」で変わった。 5 かえるくんの手紙から、「がまくんへの気持ち」がわかるところを見つけて話し合う。	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・「がまくんへの気持ち」が分かる記述を見つけてサイドラインを引かせたり、かえるくんの気持ちを書き込ませたりする。 * 「親愛なる」「親友」という言葉の意味をおさえる。
開	⇒ 「かえるくんの手紙」で変わった。 5 かえるくんの手紙から、「がまくんへの気持ち」がわかるところを見つけて話し合う。	1 0	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合う中で、「がまくんへの気持ち」が分かる記述を見つけてサイドラインを引かせたり、かえるくんの気持ちを書き込ませたりする。 * 「親愛なる」「親友」という言葉の意味をおさえる。
開	6 がまくんとかえるくんの気持ちを想像して、自分なりの言葉で表現してまとめる。 がまくん「かえるくんのおかげでしあわせだな。」 かえるくん「よるこんでもらえてうれしいよ。」		<ul style="list-style-type: none"> ・話し合う中で、この出来事がきっかけとなり、二人の心のふれあいが深まったことに気づかせる。 ・「ふたりとも」の「<u>とも</u>」の部分から、かえるくんも幸せな気持ちになったことに気づかせる。
終末	 7 本時の学習を振り返る。 8 次時の学習について確認する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 書かれている言葉や文、挿絵に着目して、がまくんの気持ちの変化やかえるくんの気持ちを読み取っている。【読】(教科書、ノート、発表、観察) ・本時の学習を振り返り、感想などを発表させる。 ・本時の学習を生かして役割読みをすることを伝える。

- 授業3では、授業2を通して、文を読むための読み取りアイテムを設定した。（下記参照）

【読み取りアイテム】

- ① ことばを外して読む（物語文・説明文） ※ やまなし
 - ② まとまりを比べて読む（物語文・説明文） ※ やまなし
 - ③ ことばをつないで読む（物語文・説明文） ※ 平和のとりでを築く
 - ④ 自分に置きかえて読む（物語文・説明文） ※ やまなし
 - ⑤ 様子から人物の気持ちを読む（物語文・説明文） ※ やまなし
 - ⑥ 呼び方を比べて読む（物語文・説明文） ※ 平和のとりでを築く
 - ⑦ 文末表現を読む（物語文・説明文） ※ 平和のとりでを築く
 - ⑨ 題名につながることばから筆者の意図を読む（説明文） ※ 平和のとりでを築く
 - ⑩ 事例の配列から筆者の意図を読む（説明文） ※ 平和のとりでを築く
- ※は各アイテムを見つけることができた単元（「やまなし」と「平和のとりでを築く」より）

7 研究の成果と課題

これまでの研究を視点に沿って振り返る。

音読を積極的に取り入れた学習を日常的に積み重ねるとともに、各教科授業において、言葉の意味や内容を理解させる指導を続ければ、心情・情景や作者の意図を考えながら読むことができ、文章をイメージ豊かに読むことができたか？

- 音読の日常化を図るため、各学年共通実践事項として、1単位時間の中で、声に出して読む機会を積極的に設けたところ、子どもたちは、文章をすらすら読めるようになった。

また、教師が必ず捉えさせたい意図した言語については、教室掲示や学校掲示板で意味を説明し、言語環境を整えることで、言語に対する興味もふくらみ、新たな課題に興味を持ち、言葉の意味を理解していくことできた。

音読の日常化と言語環境の整備によって、文章の読みが浅い子どもたちも、繰り返し読んでいくうちに言葉や文章の内容を捉え、そのことによって、作者の考えや訴え、登場人物の気持ちや情景の移り変わりを考えつつ読むことができるようになってきた。

- 今年度は、一連の言語環境を整えたり、音読の積極的な取り組みを進めたりしてきた。今後は、発達段階に合わせた系統的な言語環境の整備や、学校で統一したクラス掲示板の活用方法等考えた上で、各学年で到達してほしい音読の目標を持ち、継続的な指導を行う必要がある。

資料や教材を単に読んで理解するだけでなく、それに対する自分の考えを書いたり、要約・紹介したり、再構成したり、自分の意見を論じさせたりする機会を設けることで、「読む力」は更に高まったか？

- 指導者自身が、「読むこと」と「書くこと」と「話す」を切り離して考えず、指導をしようという意識が高まった。

全校児童の前で自分の感想や意見を述べる機会をできるだけ多く持つようにした。その成果として、討論会での発言が活発化したり、自分の思いを文章で綴ったりすることにも積極的に取り組む姿が見られるようになった。

- 上に記した子どもたちの変容を、「読む力」と結び付けて捉える検証を十分に行うことができなかった。しかしながら、各単元の発展的な内容の中で、自分の感じ取ったことを本の帯で紹介したり、意見文として書いたり、また、自分の意見を相手に理解してもらえるような積極的な話し合いを行ったりすることに対し、意欲的な姿が見られるようになった。

今後は、これまでの活動が「読む力」につながっていることを検証していくことも視野に入れながら、継続的に研究を進めていきたいと考える。